

富山交通圏における特定地域指定基準への適合状況

《適正車両数》

- ✓ 平成26年度末車両数 437両
- ✓ 適正車両数 321両～285両
- ✓ 平成26年度末車両数（上限）との乖離車両数（乖離率） 116両（26.5%）

《指定基準》

（1）実働実車率の要件

減少率18.3% 平成13年度 39.2%→平成26年度 32.0%

（2）赤字車両数シェアの要件

収支差28.2ポイント 平成25年度 33.3%→平成26年度61.5%

（3）人口要件

富山市 約41万人

（4）総実車キロの要件

増加率▲4.3% 平成25年度 6,843,875km→平成26年度 6,546,681km

（5）次の①から③のいずれかに該当すること。

① 日車営収又は日車実車キロの要件

日車営収 減少率 15.4% 平成13年度 32,495円→平成26年度27,478円

日車実車キロ 減少率 22.2% 平成13年度 77.9km→平成26年度 60.6km

② 法令違反の発生状況の要件

富山交通圏 0.0116件（全国平均 0.0511件）

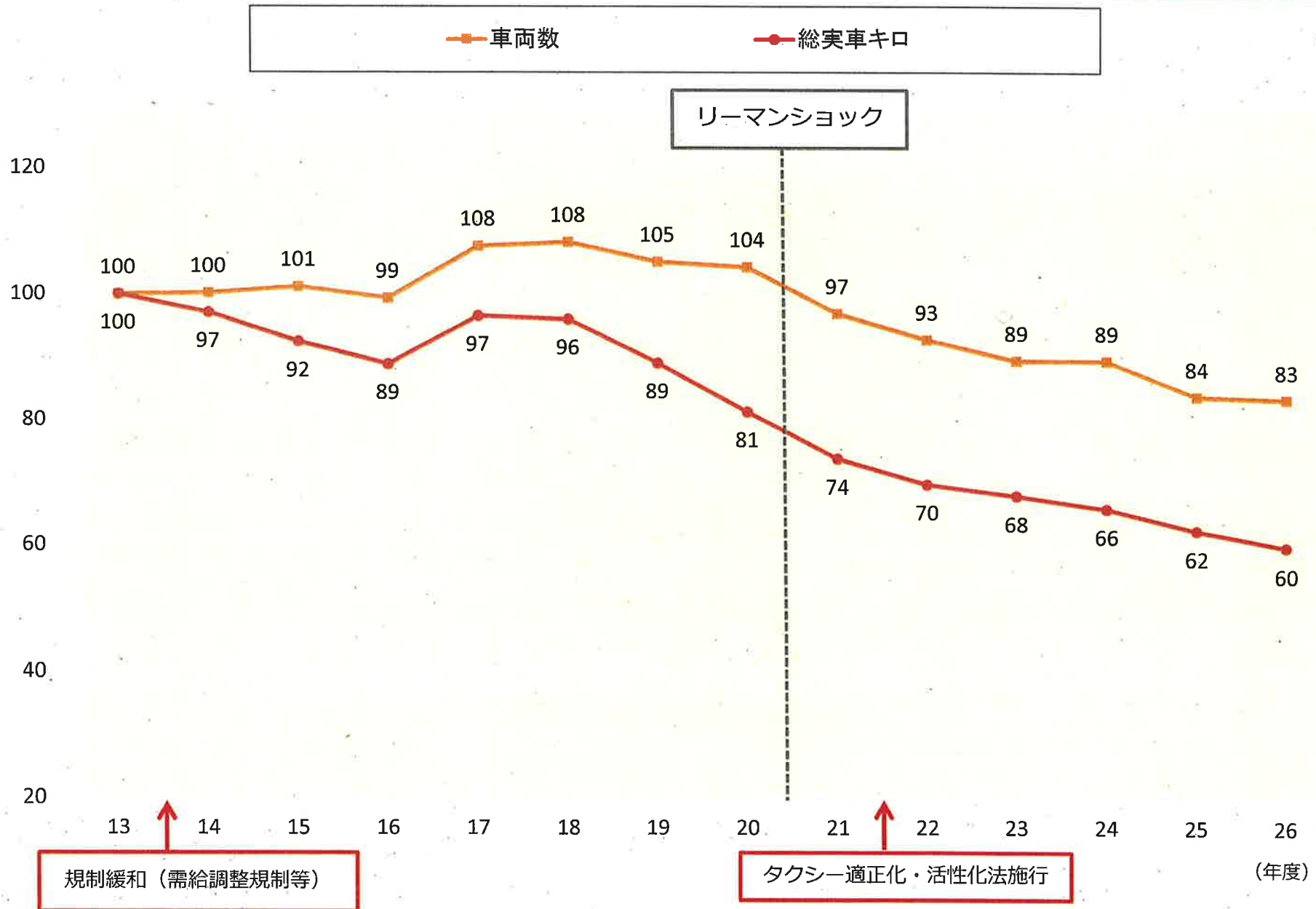
③ 事故の発生状況の要件

富山交通圏 4.156件（全国平均 7.607件）

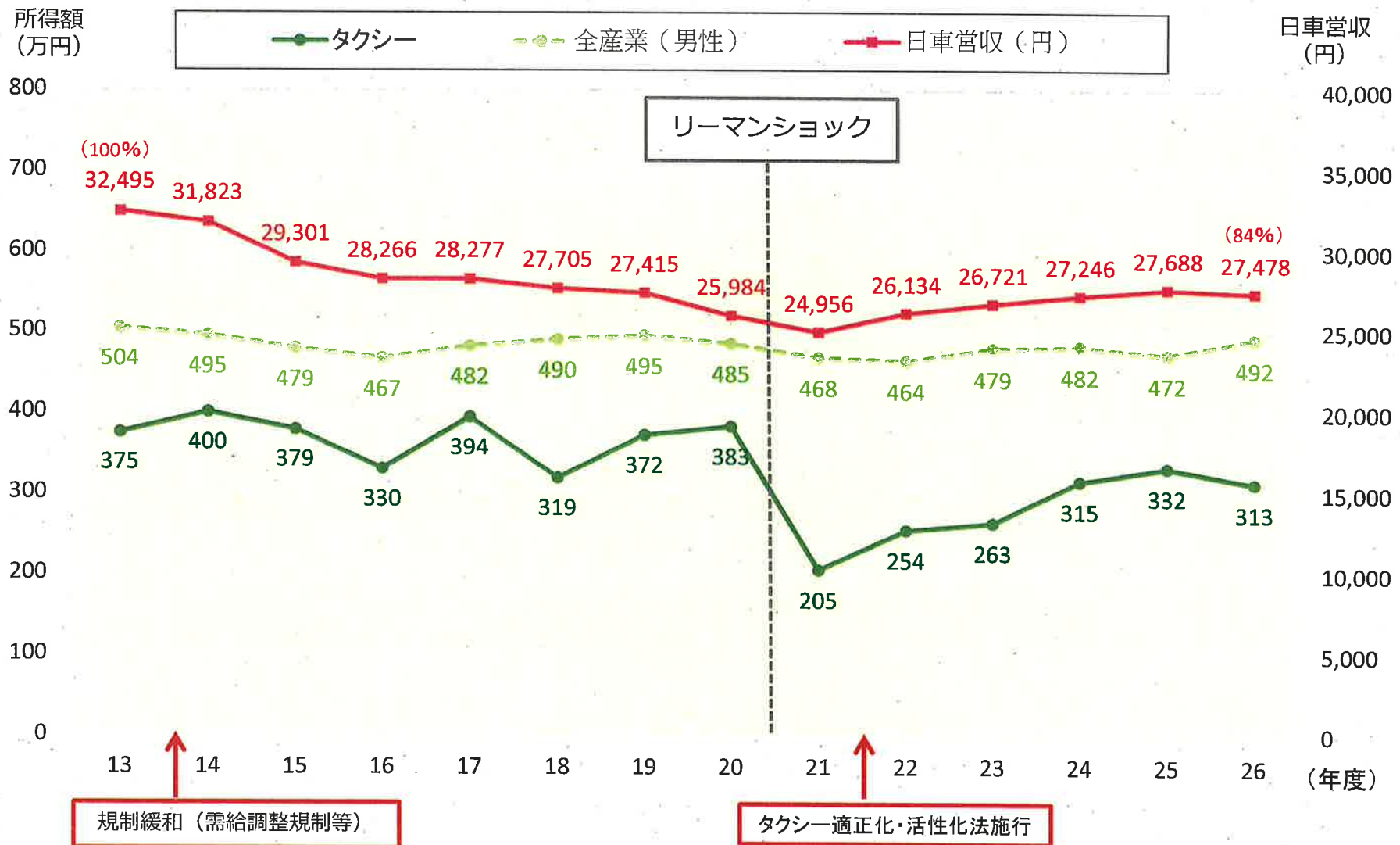
（6）当該営業区域における協議会の同意があること。

3月25日付けで協議会より「指定に同意する」旨の報告あり

車両数（供給量）と実車走行キロ（需要量）の推移（富山交通圏）



タクシー事業における日車営収と年間所得の推移（富山交通圏）



注1 日車営収：実働1日1車当たりの運送収入（毎年度）

注2 年間所得資料：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」により国土交通省が推計した値



平成28年3月25日

国土交通大臣 殿
(北陸信越運輸局経由)

富山交通圏準特定地域協議会
会長 長尾 治明

特定地域の指定に関する決議について (報告)

平成28年3月24日に協議会を開催し、特定地域の指定に関する議論を行った結果、特定地域の指定に同意するとの結論に至りましたので報告します。



富山交通圏準特定地域協議会出席者名簿

構成別	氏名	所属・役職	備考(代理)
地方公共団体	松本 智廣	富山県知事政策局総合政策室 課長(地域交通担当)	
	黒瀬 裕治	富山市都市整備部 交通政策課長	交通企画係長:高瀬雅基
タクシー事業者等	土田 英喜	富山県タクシー協会 会長	
	土田 英喜	富山交通株式会社 代表取締役	
	中田 邦彦	富山地鉄タクシー株式会社 取締役社長	取締役統括部長:山田勝仁
	池田 治郎	北日本モーター株式会社 取締役社長	
	坂本 重年	有限会社北陸小型交通 代表取締役	
	駒見 伸子	城南交通株式会社 代表取締役	取締役執行役員:宮田 豊
	竹内 茂	婦中交通株式会社 代表取締役	金森豊
	田上 利徳	有限会社愛交通 取締役社長	営業部長:清 幸男
	森 慶文	富山個人タクシー協同組合 理事長	
	加藤 廣重	加藤タクシー	
	工藤 智昭	おわら観光タクシー	
	佐藤 和彦	はるかタクシー	
	佐藤 昌子	ひかりタクシー	
	竹内 政雄	竹内タクシー	
	舘 捷司	舘タクシー	
	常川 清治	常川タクシー	
	富野 輝重	富野タクシー	
	中森 一成	中森タクシー	
	入部 久則	ニュータクシー	
	野澤 實	平和タクシー	
藤縄 俊史	Sタクシー		
水口 文雄	水口交通		
森川 三津子	三津黄タクシー		
森 孝一	森 交通		
森 慶文	森 タクシー		
吉川 俊明	吉川タクシー		
労働組合	石橋 剛	全国自動車交通労働組合富山地方連合会執行委員長	
利用者	梶原 真美	富山県消費者協会 事務局長	
学識経験者	長尾 治明	学校法人富山国際学園 富山国際大学 教授	
関係行政機関等	片野 圭介	富山労働局労働基準部監督課長	監督係長:成田丞志
	中田 聡	富山県警察交通部 交通規制課長	課長補佐:本多 善志
行政	長谷川 僚一	北陸信越運輸局自動車交通部旅客課専門官	
	小池 克弘	北陸信越運輸局富山運輸支局長	
	中村 幸春	北陸信越運輸局富山運輸支局首席運輸企画専門官	
	大川 貴浩	北陸信越運輸局富山運輸支局運輸企画専門官	
事務局	清澤 新一	富山県タクシー協会専務理事	

タクシー特措法による適正化・活性化の取組状況について(富山交通圏)

適正化に向けた取組 (活性化事業計画の認定状況)

- ▶ 事業者数 (H 2 8 . 3 末) : 14社
- ▶ 活性化事業計画認定事業者数 : 14社
- ▶ 事業再構築 (減車・休車) を定めた事業者数 : 8社
- ▶ 基準車両数 (旧特措法に基づく基準車両数) ① : 510両
- ▶ 現在車両数 (H 2 8 . 3 末) ② : 437両
- ▶ 減休車率 (① - ②) / ① : 14.3%
- ▶ 適正車両数 : 321~285両

活性化に向けた主な取組事例

キッズタクシー

ライフスタイルの多様化が進展し、とりわけ、乳幼児のある家庭における負担が増大していることから、子育て世代の生活をサポートし、負担軽減を図ることが求められている。

このような状況を踏まえ、乳幼児連れの外出や、一人での通園・通学・通塾の送迎等子育て世代にかかる移動をサポートする「キッズタクシー」を平成27年4月より実施(富山交通(株))。

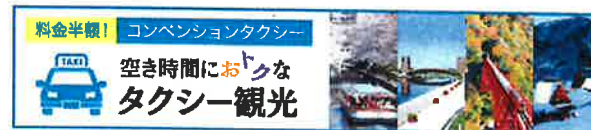
この取り組みにより、子育て世代の生活における負担軽減や安全かつ安心な乳幼児送迎が確保されるのみならず、タクシー事業者における接遇面の強化・改善等が図られている。



コンベンションタクシー

富山県で開催されるコンベンションに参加するために富山県内で宿泊される方がタクシーで富山県内を観光する場合に、運賃の半額が助成されている(富山県コンベンションビューローが発行する「半額利用券」を使用、平成20年7月より実施。)

通常運賃との差額は、富山県(2割)、市町村(2割)、タクシー事業者(1割)が負担(交通圏内法人13社、個タク39者適用)。



スマホ配車

スマホの無料アプリをダウンロードすることにより、旅客のいる場所に素早くタクシーを配車することが可能。簡単な初期設定・操作のみで、その場から利用可能(交通圏内法人2社実施。)